

「未来を切り開く力をもった生徒の育成」

○ 心の中に「複数の物差し」を持つ

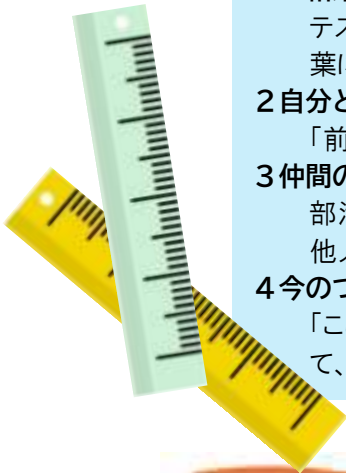
なぜ、心の中に「複数の物差し」を持つことが大切なの？

- ① 勉強や部活では、すぐに結果が出ない努力や少しずつ伸びる力が大切。
 - ・ 結果だけでは、その努力や成長を見落としてしまう。
- ② 仲間と協力して成長する時期。
 - ・ 協働や粘り強い挑戦は、数字では測れない大切な力になる。
- ③ ひとつの物差しだけでは見方が狭くなる。
 - ・ 物差しが増えると、自分や仲間の良さ・成長に気づき、自信や思いやりが育つ。



【提案】「複数の物差し」を持つことができるようになるために

- 1 「結果」だけでなく、自分の努力や工夫をふり返る
テストや試合のあとに、「どんな準備をしたか」「どこをがんばれたか」「どんな成長があったか」を言葉にしてみる。「結果以外の価値」に気づけるようになる。
- 2 自分と他人を比べるのではなく、過去の自分と比べる
「前よりできるようになった」「前は諦めたけど今回は続けた」と自分の成長を見つめる目を育てる。
- 3 仲間の努力や過程にも目を向ける
部活や授業で、仲間の工夫や頑張りに注目すると、「勝ち負けだけじゃない価値」が見えてくる。他人への見方が変わると、自分への見方も自然と広がる。
- 4 今のつまずきも「将来につながる経験」と考える
「ここを工夫してみた」「最初は苦手だったけど、少しずつできるようになった」と話したり書いたりして、“過程を言葉にする”ことで、過程の物差しを自然に意識できるようになる。



○ 一つになる瞬間：多様性の組み合わせが生み出す「奇跡」

授業、運動会、合唱コンクール、部活動
「学校生活のあらゆる場面で」

「わかった」が「楽しい」に変わる。
そして、「一体感」が「予想を超える感動」を生み出す。

私たちが目指すのは、一枚岩ではない。
不揃いな個性(石)がぶつかり合い、互いを支え合う「お城の石垣」だ。
誰ひとり欠けてはならない、このクラスだけの完璧な構造。
仲間と力を合わせてやり遂げる喜びを味わおう。
その大きな感動は、「違い」を生かし合った一体感から生まれる。

